

とみす活性化計画

平成29年度～平成38年度

2018年3月29日
安富北地区連合自治会

とみす活性化計画

目次

1. 事業の目的と背景	
1) 計画の策定主旨	・・・ 2
2) 計画期間	・・・ 3
3) 活性化計画策定までの流れ	・・・ 3
4) 体制づくり	・・・ 4
2. とみす活性化計画	
1) 活性化計画	・・・ 5
2) 目的	・・・ 5
3) キャッチフレーズ	・・・ 5
4) 目標	・・・ 5
5) 重点戦略・地域資源	・・・ 6
3. 重点戦略計画	
重点戦略① 自然、森と共生する、日本の原風景の里「とみす」	・・・ 7
重点戦略② おいしい食べ物がいっぱい「とみす」	・・・ 10
重点戦略③ 訪れて、遊んで、楽しい「とみす」	・・・ 12
重点戦略④ 移住者が増えるおもてなしの里「とみす」	・・・ 14
重点戦略⑤ 誇り高き、団結のふるさと「とみす」	・・・ 16
重点戦略⑥ 次世代が育つ「とみす」	・・・ 18
4. とみす活性化計画策定スキーム	
1) 策定スキーム	・・・ 20
2) 事業実施のP D C A	・・・ 21
3) 運営組織図	・・・ 22

1. 事業の目的と背景

1. 計画の策定主旨

安富北地区は姫路市の北西部に位置し地区の面積は約3,396ha、人口約750人（平成29年）の地域で、朽原、末広、皆河、関の4地区から成り、安富北小学校を中心に地域が広がっています。宍粟郡安師村と富栖村が昭和31年7月に合併し宍粟郡安富町になり、さらに平成18年3月には姫路市と合併し現在に至りますが、本地区は旧富栖村にあたり、今でも「とみす」の愛称で親しまれています。

広大な山林が広がる本地区の森林面積は約3,184ha、林野率は約94%と豊かな自然に恵まれた地域です。かつては林業生産活動も旺盛で、戦後スギ、ヒノキが植林され、現在、人工林が2,435haとなり、この豊富な森林資源を健全な形で活用し、その財産を将来に渡って継承していく事が重要です。

農業につきましては、朽原、末広、皆河の3地区で15軒弱の農家がありますが、主にお米を中心に生産が進められており、地区全体で約34ha（JA兵庫西調べ）の田畑があります。その中で現在、活用されているのは約11haにとどまり、残りは休耕地や調整田となっています。

また、観光資源としては、町の中央を貫くように、清流林田川が流れ、日本の原風景ともいえる自然が広がっています。地域の景観に合ったふるさとのかかし、名勝鹿ヶ壺周辺に整備されたグリーンステーション鹿ヶ壺、本格的な金の採掘が行われていた「富栖鉱山」、専門家からも注目を集める日本で唯一の坑道ラドン浴施設「富栖の里」など、多くの地域資源に恵まれた地域であります。

しかし現状では、それらの恵まれた地域資源を活かしきれておりません。また、少子・高齢化や人口減少は確実に進行しており、深刻な状況です。その状況を打開すべく、地域住民が立ち上がり、人口減少に歯止めを掛け、様々な地域資源を活用した、地域活性化に取り組むために「とみす活性化計画」を策定し、実施していきます。

安富北地区の人口動態

		平成18年	平成24年	平成29年
世帯数	(世帯)	298	305	287
人口	(人)	935	859	743
高齢者数	(人)	272	260	264
高齢化率	(%)	29.1	30.3	35.5
年少者数	(人)	137	114	89
年少者率	(%)	14.7	13.3	12.0
人口減少率(過去10年間)				-18.7%

※住民基本台帳人口による数値(各年3月末時点)
姫路市統計情報
※高齢者は65歳以上の数
※年少者は14歳以下の数

	天然材	人工林	除地等	総計	人工林率
安富町皆河	216.67	652.00	5.41	874.08	74.60%
安富町関	405.22	751.67	3.26	1,160.15	64.80%
安富町朽原	95.06	437.27	2.94	535.27	81.70%
安富町末広	18.36	594.37	1.73	614.46	96.70%
総計(D)	735.31	2,435.31	13.34	3,183.96	76.50%

単位: ha

- ◎富栖地区の面積 :3,396ha
- ◎富栖地区の森林面積 :3,184ha
- ◎富栖地区の林野率:3,184÷3,396=93.8%
- ※中はりま森林組合調べ（平成30年3月現在）

1. 事業の目的と背景

2. 計画期間

平成29年度～平成38年度

(10か年計画)

地域の課題

若年層減

年少者率（平成29年）
12.0%

進む高齢化

高齢化率（平成29年）
35.5%

地域活動力の低下

人口減少率（過去10年間）
▲18.7%

3. 活性化計画策定までの流れ

安富北地区では、人口減少と高齢化が著しい現状のなか、将来的にコミュニティが存続できるように、数年前より検討・協議を重ね、平成28年度に核となるプロジェクトチームメンバーを選任し、平成29年度より「とみす活性化計画実行委員会・幹事会」を発足しました。アンケートや意見交換を重ねることにより地域の意見を幅広く聞きながら、地域資源を体系的に整理するとともに、「姫路市がんばる地域応援事業」を活用して、神戸新聞社や甲南大学などの専門的なアドバイスを受けながら住民主体の計画として「とみす活性化計画」を策定しました。

1. 事業の目的と背景

4. 体制づくり

安富北地区の将来像の実現には、地域住民、事業者（農業を含み民間事業者等）、森林組合などの地域関係者が主体的立場に立ち、活動する必要があります。

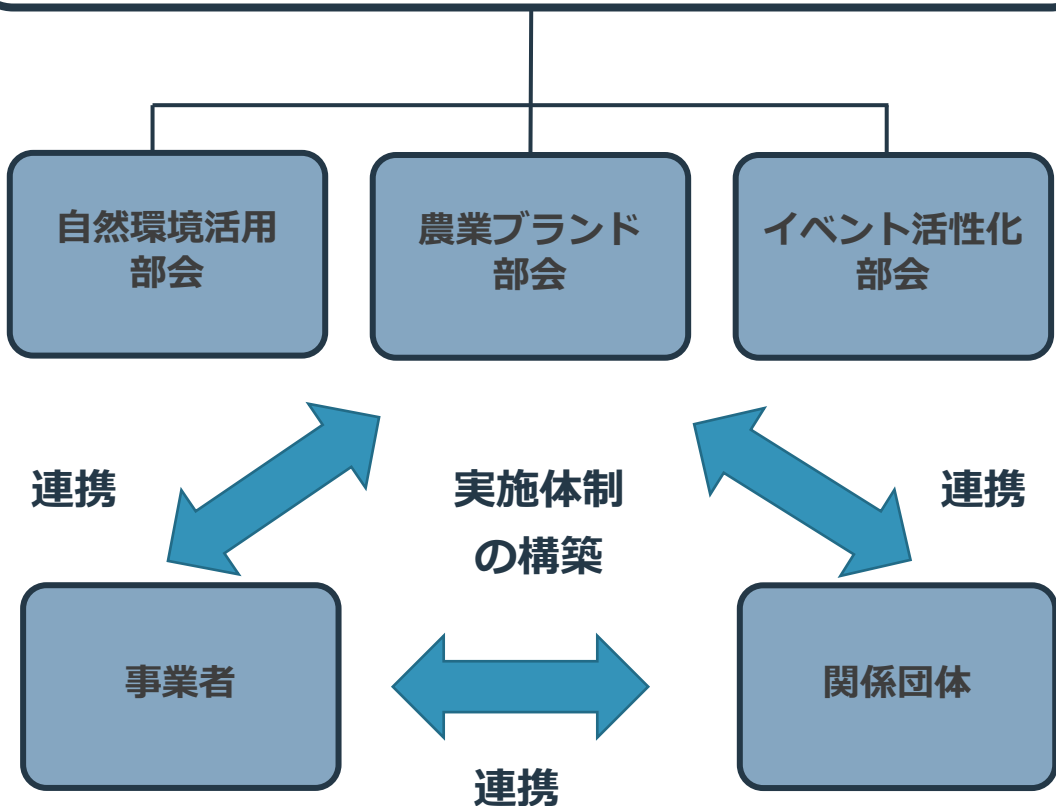
また、活性化計画の実現に向け、平成30年度以降においては、兵庫県などの補助事業をできるだけ活用していきます。

とみす活性化計画の実行委員会・幹事会

- ・ 未広地区
- ・ 朽原地区
- ・ 皆河地区
- ・ 関地区 各地区から3~5人
- ・ 地区外の委員

プロモーション検討会

各分科会の進捗を受けて開催。ソーシャルメディア（Instagramなど）、ウェブ、新聞、テレビ、ラジオ、動画などの有効活用について協議。



2. とみす活性化計画

1. 活性化計画

T M S²

ともに 未来を すてきに

構成地区の頭文字、T:朽原、M:皆河、S:関、末広を「TMS²」として“ともに、未来を、すてきに”、とみす活性化計画に取り組みます。

2. 目的

安富北地区は、美しい森林に囲まれ、清流が流れ、その水から命を得た農作物が育まれる地域。

自然からの恩恵を受けた、日本の原風景ともいえるこの景色を守り次世代に継承していくことが重要。

安らぎを感じ、癒される「とみす」の里のええところや地域資源を発掘し、また新たに創ることも必要。

まずは、ここに住む人たちが積極的に活動に関わることで、「ふるさと愛」、「一体感」を高め、若者の参画を呼び込み、次世代を担う子どもたちが「地域愛」を高める活動に取り組んでもらえるようにします。

そして、我々が誇りとする「とみす」を積極的に地域外へ発信し、観光客を呼び込み、人の交流と地域経済の循環を生み出すことで雇用創出を目指します。また、地域に点在する空き家を活用することで、移住者を呼び込み、地域のさらなる活性化につなげていきます。

3. キャッチフレーズ

安富北地区の共通認識を高める目的として、キャッチフレーズを決めました。

ちよっどいい田舎

～来て良かった、住んで良かった「とみす」～

4. 目標

地域活性化のための「3つの目標」

1. 観光客ら来訪者の増加
2. 移住者の増加（5年後に2世帯、10年後に5世帯）
3. U・I・Jターン者の増加

2. とみす活性化計画

	重点戦略	地域資源
安富北地区の地域資源を活用	①自然、森林と共生する、日本の原風景の里「とみす」	とみす杉、貸農園、千年家、ホタル（ゲンジボタル・ヒメボタル）鹿ヶ壺・関地区、清流、星空、富栖の里（ラドン浴）、奥播磨かかしの里
	日本の田舎の原風景を残した地域を守りつつ、その上で自然との関わりを再構築し、雇用を生み出して、地区を維持し発展できるとみすの里にしていきます。	
	②おいしい食べ物がいっぱい「とみす」	とみす米、山椒、ワサビ、ゆず、きれいな水
	豊かな自然や清流を背景として、安心・安全で素材本来の良さを楽しめる特産品の開発・PRにより、地元特産品の6次産業化を進め、交流人口を増やし、新たな雇用を生み出します。	
	③訪れて、遊んで、楽しい「とみす」	森のまつり（仮称）、ウォーキング、ハイキング、川遊びダム湖（スタンドアップパドルボード・カヌー）、火まつり
	住民が、とみすの魅力を再発見し、アウトドア活動を通じて地元への愛着や住環境の満足度を高め、更には気軽に訪問できる観光地としての付加価値を高めます。	
一体住民の醸成	④移住者が増えるおもてなしの里「とみす」	空き家、豊かな自然、人情味あふれる里人
	環境や個性を守りつつ、新しく来られる方を歓迎できる、ふところの深いまちづくりを進めます。子どもから高齢者の方まで笑い声と挨拶が絶えず、高い幸福度が得られる、とみすの里を形成し、移住定住を促進します。	
人材育成の	⑤誇り高き、団結のふるさと「とみす」	住民、とみす愛、若者組織（天晴会）
	住民一人ひとりが、とみすの里に誇りを感じ、地域の活動に積極的に参加することを目指します。地域の活動を積極的に展開し、住民の一体感を高めます。	
人材育成の	⑥次世代が育つ里「とみす」	安富北小学校
	地域の活動に若者の参画を促し、また、次世代を担う子どもたちのふるさと愛を高めるため、安富北小学校を「開かれた小学校」として、地域で支えていきます。	

重点戦略①

自然、森と共生する、 日本の原風景の里「とみす」

日本の田舎の原風景を残した地域を守りつつ、その上で自然との関わりを再構築し、雇用を生み出して、地区を維持し発展できる「とみすの里」にしていきます。

地域資源

とみす杉

貸農園

千年家

ホタル（ゲンジボタル・ヒメボタル）

清流

鹿ヶ壺・関地区

星空

富栖の里（ラドン浴）

奥播磨かかしの里

活用できる地域資源の現状と取り組み

①とみす杉

広大な山林より産出される「とみす杉」は、「姫路市の公共建築物等における木材利用の促進に関する方針」により、姫路駅周辺施設（キャッスルビュー連絡デッキ等）や市内保育所において使用され、市内産木材を多用した木材の魅力を感じることの出来る街づくりの推進に活用されています。

今後の取り組みとしてSNS等を活用したPRを行い、木材の良さ、更にはとみす杉の良さを広く認知してもらい、消費促進を図ります。また、加工品など付加価値商品の開発等にも取り組み、更なる木材の消費を促します。

目標として、とみす杉の消費増と林業事業の担い手の増加や雇用の創出等の活性化を進めていきます。

②貸農園

安富北小学校の生徒を対象に、農業とのふれあいを目的に田植え体験を行っています。今後の農業の担い手不足や休耕地の解消が地域の課題です。

安富北地区が抱える農業の問題を解消する一つ的手段として、地域外からの来訪者などを対象とした貸農園事業の実施などを検討していきます。各自治会を通じて協力者を募り、貸農園や田畑のオーナー制度等の事業化を模索していきます。

目標として、地域外からの貸農園・オーナー制度の利用者増加や、地域内での新しい農業の担い手の育成・移住者による農業への参画など、雇用の創出と休耕地の解消を目指します。

3 . 重点戦略計画

③千年家

安富町皆河にある入母屋造の木造茅葺古民家「古井家住宅」。室町時代末期の建築と推定され、国の重要文化財に指定されています。現在は「千年家公園」として一般公開しています。

今後の取り組みとしてSNS等を活用したPRを行い、素晴らしい文化財のある地域として認知を広めます。また、千年家を拠点とした地域外向けの交流イベントの実施を模索していきます。

目標として、千年家の見学者及び地域への観光客の増加を目指します。

④ホタル（ゲンジボタル・ヒメボタル）

安富町は、ホタルの里として知られています。水生のゲンジボタルと陸生のヒメボタルが同時に観察できる、めずらしい地域です。

今後更なる情報発信を行い、水のきれいなホタルの生息している地域としての認知を広めます。

しかし、現状の地域ではホタル観察を目的とした観光客の受け入れ体制が不十分なため、駐車場などの周辺区域の受け入れ体制や生息地域を含めた自然環境の維持について整備をしていく必要があります。また、観察スポットのマップ制作などを進めていきます。

目標として、地域外にホタルの里としての再認識をしていただき、ホタルまつりなど地域外からの観光客が見込めるイベントの実施や、水のきれいな地域のイメージが、各種特産品等へと波及して地域のブランド力が向上していけるようにします。

⑤鹿ヶ壺・清流・星空

グリーンステーション鹿ヶ壺周辺は、緑と水に包まれた森林のなかで、キャンプやハイキングなど多様な活動の拠点として利用されています。鹿ヶ壺の滝や清流、千畳平から見える星空など魅力的な観光資源が豊富にあります。

豊富な観光資源のある地域としてSNS等を活用したPRを行い、地域の魅力を幅広く伝えるとともに、星空見学会、地元特産品を活用したBBQ大会や空き家見学会等の体験イベントの実施を模索していきます。

目標として、グリーンステーション鹿ヶ壺宿泊施設の利用者や地域への観光客の増加に繋げ、定期的にイベントを開催しリピーターを確保できる体制づくりを模索し、地域活性化を進めていきます。

3 . 重点戦略計画

⑥富栖の里（ラドン浴）、奥播磨かかしの里

癒しを求めて富栖の里（ラドン浴）の来場者は2017年には年間約13,000人に上ります。また地域のにぎわいとして四季折々の山里風景と一体化した、かかし約130体が一年を通して設置されています。

ラドン浴の素晴らしさや効能を、地域としてもSNS等を活用したPRを行い、利用者の増加や、その利用者が地域内への観光スポットへ足を向けて頂けるよう、富栖の里（ラドン浴）と連携を図っていきます。奥播磨かかしの里とも連携を図り、かかしサミット等のイベント来場者に地域の魅力を伝えていきます。

目標として、富栖の里(ラドン浴)の中長期利用者や奥播磨かかしの里の見学者を対象とした宿泊施設の整備を、空き家対策の観点からも模索していきます。

年次計画目標・取り組み

地域資源	次年度 (~2019年3月)	3年後 (~2021年3月)	5年後 (~2023年3月)	10年後 (~2028年3月)
とみす杉	● SNSによる情報発信・拡散	● とみす杉活用に向けてのPR	● 木加工品の試作	● 消費増と林業事業の活性化
貸農園	● 各自治会を通じて貸し農園協力者探し	● 外部への貸農園事業施行		● オーナー制度化
千年家	● SNSによる情報発信・拡散	● 千年家の見学者増	● 関連イベントの実施	● 関連イベントの継続
ホテル	● SNSによる情報発信・拡散	● ホテルの見学者の受け入れ体制整備	● 再度、ホテルの里として認知強化	● ホテルまつり実施
鹿ヶ壺 清流 星空	● SNSによる情報発信・拡散	● 鹿ヶ壺・関地区、清流、星空観察会、空き家見学会、地元特産品を使ったBBQ大会等の体験イベントを実施	● 訪問者の増加へ	● イベントの定期開催化
富栖の里・ 奥播磨かかしの里	● SNSによる情報発信・拡散	● 連携を深める	● 空き家対策を交えた活用	● 移住対象者に向けた宿泊施設の整備

重点戦略②

おいしい食べ物が いっぱい「とみす」

豊かな自然や清流を背景として、安心・安全で素材本来の良さを楽しめる特産品の開発・PRにより、地元特産品の6次産業化を進め、交流人口を増やし、地域の活性化を進めます。

地域資源

とみす米

山椒

ワサビ

ゆず

きれいな水

活用できる地域資源の現状と取り組み

①とみす米

清流の流れる地域で栽培されるお米は安心・安全です。品種はキヌヒカリが主流でカルシウム特殊肥料（カルゲン）を使用して栽培された、ミネラルたっぷりのお米です。

現在、生産された農産物は、地元を中心に消費されています。

今後は、地域のPRツールとして活用していけるように、ブランドシールを作成し貼付したとみす米をイベント等で販売することにより、とみす米と地域の魅力を伝えます。そのために、ブランドシールは地域の魅力がイメージできるデザインにします。今後は販売拡大やブランド化に向けて、栽培農家の協力要請などを地域として行います。

目標として、農業の活性化を図るため、新たな農業の担い手の育成や移住者の増加を目指します。

②山椒・ワサビ・ゆず

地域で栽培されているゆずは農事組合法人安富ゆず組合に出荷されて流通しています。

また、山椒やワサビ等は自然の中で自生しており、地元で消費されています。

山椒、ワサビ等の更なる活用方法や自生している現状を安定的に収穫できるようにするための方法を調査・検討します。また、特産品化へ向けた試作を行います。

目標としては、それらの食材が特産品として幅広く認知され、販売が拡大することで雇用や来訪者が増加することを目指します。

③地元特産品

地元で栽培されている農作物や、清流で獲れる川魚（アマゴ、ゴリ）、豊かな山林に生息する鹿など、多様な食の資源が地元を中心に消費されています。

食には観光客を惹きつける力があります。地元で栽培されている多種多様な産品を調査・開発するグループを編成し、グループの活動を通じて地域の新しいブランドを創り、地域の魅力をPRしていきます。

目標として、特産品目的の来訪者の増加や取扱い事業者の拡大・誘致を目指します。

3 . 重点戦略計画

④きれいな水

グリーンステーション鹿ヶ壺周辺に自然取水場があり、ハイキング等に訪れた観光客や地元で利用されています。

今後の取り組みとしてSNS等を活用したPRを行います。

目標として、水のきれいな地域のイメージが、各種特産品等へと波及し、地域の水を商品化することで、新たな産業が地域に創出できるよう模索していきます。

年次計画目標・取り組み

地域資源	次年度 (~2019年3月)	3年後 (~2021年3月)	5年後 (~2023年3月)	10年後 (~2028年3月)
とみす米	●とみす米ブランドシールの作成	●とみす米のイベント等での販売強化	●栽培協力農家の増加、ブランド化	●新たな農業の担い手の移住
山椒 ワサビ ゆず	●活用方法を検討	●特産品化へ向けて試作	●特産品化	●特産品シリーズ化
地元特産品	●新しい特産品グルメの調査・開発をするグループを編成する	●新グルメメニューの開発	●PR・ブランド化	●取扱い事業者の拡大
きれいな水	●きれいな水のある地域としてPR	●きれいな水のイメージを特産品等へ波及	●水の商品化を検討	

重点戦略③

訪れて、遊んで、 楽しい「とみす」

住民が、とみすの魅力を再発見し、アウトドア活動を通じて地元への愛着や住環境の満足度を高め、更には気軽に訪問できる観光地としての付加価値を高めます。

地域資源

森のまつり（仮称）

ウォーキング、ハイキング

川遊び

ダム湖（スタンドアップパドルボート、カヌー）

火まつり

活用できる地域資源の現状と取り組み

①森のまつり（仮称）

2018年11月開催予定の森のまつり（仮称）の実行委員会に参画し、林業や地域の活性化に取り組みます。多くの来場者が見込まれるので、会場内に地域のPRブースを設けPRの実施を検討しています。

目標として、森のまつり（仮称）を成功させ、継続実施を実現し、定期的な観光客の来訪、増加につなげます。また、イベントを通じて林業振興を推進します。

②ウォーキング、ハイキング

森のまつり（仮称）の開催に併せて、地域としてウォーキングイベントを企画検討し、実施に向けて兵庫県補助金申請を準備中です。

地域の取り組みとして地元関係団体と協力して森のまつり（仮称）開催に併せて実施します。ウォーキングマップを作成し、イベント時以外でも活用できるよう地域の観光スポットや生息する動植物の解説の入った内容とし、地域の魅力を発信することにより、リピーターの来訪等にもつなげます。

目標として、イベント実施を通じての地域の連携強化と地域外への魅力の発信、また継続開催することにより、地域と都市部との定例交流行事として浸透させていきます。

③ダム湖・川遊び

安富ダム湖（富栖湖）や林田川を活用した、ウォータースポーツによる地域活性化を模索しています。

ダム湖の利用については、管理者である兵庫県との協議を行い、許可が下りれば実際に地域住民でウォータースポーツ（スタンドアップパドルボート・カヌーなど）を試験的に運用し、まずは地域の住民自らが楽しめる観光資源として活用できるように検討します。ダム湖や川への導線確保や安全対策など様々な課題を確実に解消しながら、進めていきます。

3 . 重点戦略計画

目標として、安全安心に運用ができる体制をつくり、観光資源として活用できるようにしていきます。また、利用者の拡大を促進し、設備や管理組織の整備を検討していきます。

④火まつり（森と湖と炎のまつり）

毎年、夏に関地区にて実施されている火まつりですが、住民の高齢化等により、たいまつ用木材の確保などに支障をきたし、継続実施の危機にあります。

火まつりを継続するための方法を検討し、現状の課題を洗い出しながら継続実施に向けての体制や地域としての関わりを模索していきます。

また、火まつりをSNS等を活用して広くPRしながら、観光客の増加や事業拡大にもつなげていきます。

目標として、火まつりを継続的に実施できる体制をつくり、伝統行事の継承に努めます。

年次計画目標・取り組み

地域資源	次年度 (~2019年3月)	3年後 (~2021年3月)	5年後 (~2023年3月)	10年後 (~2028年3月)
森のまつり (仮称)	●2018年11月 開催予定の森 のまつり(仮 称)実行委員 会に参画	●森のまつり (仮称)の継続 実施	●継続実施	
ウォーキン グ・ハイキ ング	●森のまつり (仮称)共催 イベントとし て、ウォーキ ング、ハイキ ングイベント 実施、マップ 作成	●ウォーキング、 ハイキングイ ベントの実 施・共催イベ ントの内容充 実	●継続実施	●ウォーキング、 ハイキングイ ベントの10周 年記念大会開 催
ダム湖 川遊び	●川遊び、ダム 湖(スタンド アップパドル ボート、カ ヌー)活用 について兵庫 県と協議	●川やダム湖 を活用してス タンドアッ パドルボート、 カヌーなど を地元住民で 楽しむ	●観光資源とし て活用	●管理組織の設 立、利用者拡 大
火まつり (森と湖と 炎のまつ り)	●火祭りの継続 実施方法を検 討	●火まつりへの 事業協力の拡 大、来訪者の 増加		●火まつりの継 続実施

移住者が増える おもてなしの里「とみす」

環境や個性を守りつつ、新しく来られる方を歓迎できる、ふところの深いまちづくりを進めます。子どもから高齢者まで笑い声と挨拶が絶えず、高い幸福度が得られる、とみすの里を形成し、移住定住を促進します。

地域資源

空き家

豊かな自然

人情味あふれる里人

活用できる地域資源の現状と取り組み

①空き家

自治会単位で空き家の状況調査、意見集約、地権者の意向を確認し地域内の空き家の情報収集を検討しています。

空き家の情報収集を実施し、地権者の意向を確認します。その情報をもとに空き家の一覧表を作成し、公開してよい物件に関しては情報提供等を行い、移住希望者とのマッチング等を行います。また、本計画内で行われる各種イベントを通じて移住検討者、希望者に対してPRをしていきます。

目標として、5年後に移住者2世帯の増加、10年度には移住者5世帯の増加を実現し、地域の少子高齢化対策に努めます。

2018年には先進地域の事例を学ぶため、視察研修を実施しました。

- ・ 神楽（しぐら）自治振興会視察研修（2/6）
- ・ 第10回地域再生大作戦元気交流会視察（2/18）

②豊かな自然

豊かな自然を満喫できる地域として、自然環境の調査や保全などを検討しています。地域の自然環境の調査を実施し、その過程でSNS等で情報発信できるようなスポットを探し、観光客を増やします。

目標として、地域全体で自然環境の保全活動に取り組み、豊かな自然を次世代へと継承していきます。

3 . 重点戦略計画

③人情味あふれる里人

笑い声と挨拶が絶えない、高い幸福度が得られる地域づくりを目指し、移住検討者、希望者に対して魅力的な地域と感じていただけるように、地域住民の意識を高め、おもてなしの心で接していきます。

移住検討者、希望者に対して地域の魅力を体験できる各種イベントを実施し都市部との交流を深めます。また、ホームページ（制作予定）やSNS等も併せて活用します。来訪者との交流を通じてアンケートを実施し対外的に見た地域の課題などの情報収集を行います。

目標として、イベント実施を通じて地域の連携を深め、新たに抽出された課題に対して改善を行い、移住定住を促進します。

年次計画目標・取り組み

地域資源	次年度 (~2019年3月)	3年後 (~2021年3月)	5年後 (~2023年3月)	10年後 (~2028年3月)
空き家	●空き家状況調査、意見集約、地権者の意向確認	●空き家の状況を確認と物件の一覧を作成し、情報提供を開始する	●移住者の増加(2世帯)	●移住者の増加(5世帯)
豊かな自然	●自然環境の状況調査を実施し、豊かな自然をSNS等で情報発信する	●自然環境の保全活動		●豊かな自然を保全し次世代へ継承
人情味あふれる里人	●移住検討者、希望者に対して各種イベントを通じて安富北地区をPR	●ホームページ、SNSを活用しPR	●移住者にアンケートを実施し情報収集と結果をもとにPR活動等を行う	●PR活動等の継続・強化

重点戦略⑤

誇り高き、 団結のふるさと「とみす」

住民一人一人が、とみすの里に誇りを感じ、地域の活動に積極的に参加することを目指します。地域の活動を積極的に展開し、住民の一体感を高めます。

地域資源

住民

とみす愛

若者組織（天晴会）

活用できる地域資源の現状と取り組み

①住民・とみす愛

地域活性化活動は住民同士の結束が不可欠です。とみす愛もモチベーションの要となります。今後、地域交流を行う機会を今まで以上に設け、住民の意識を高めていきます。本計画の策定や事業実施のために自治会を中心とした実行委員会を設立しました。そのなかで来年度へ向けての話し合いや、兵庫県への補助金申請準備をすすめてきました。

今後、地域交流を深める場として、地域交流会を実施します。その中で新たな地域交流イベントを検討し実施を検討していきます。そのための活動拠点の調査、改修や体制の整備を行います。

目標として、交流会やイベントを通じて地域交流が拡大し、本計画の様々な取り組みにむけての地域の体制を醸成していきます。

あっぱれかい

②若者組織（天晴会）

現在、天晴会として様々な地域活動に取り組んでいただいております。今後も活動の範囲を広げていただき、地域住民と協力し、本計画の事業を具体的に推進したり、情報発信を行うグループの組織化を検討しています。その主要メンバーとして若者組織である天晴会のメンバーに広く参画していただき、様々な取り組みの原動力となっていただきます。まずは、SNS等を活用したPRを行い、将来的にはホームページの立ち上げを行い、SNSと合わせて情報発信の両輪として運用していきます。

3 . 重点戦略計画

年次計画目標・取り組み

地域資源	次年度 (~2019年3月)	3年後 (~2021年3月)	5年後 (~2023年3月)	10年後 (~2028年3月)
住民	●地域交流会の実施	●地域交流イベント案の具体的な案検討	●地域交流イベントの試行的取り組み	●イベントを通じた交流の拡大
とみす愛	●今後の活動の拠点と組織体制を検討	●地域交流施設・場の整備のための既存施設の候補物件調査・整備	●拠点の改修	●拠点を活用した事業の実施
若者組織 (天晴会)	●事業実施体制を検討	●事業体制チームの組織化	●事業体制チームの整備、拡充	
若者組織 (天晴会)	●安富北地区のホームページ作成準備。SNS等での情報拡散。SNS推進グループ(仮)を組織化	●安富北地区のホームページ立ち上げ	●安富北地区のホームページコンテンツの充実	

次世代が育つ 「とみす」

地域の活動に若者の参画を促し、また、次世代を担う子どもたちのふるさと愛を高めるために、安富北小学校を「開かれた小学校」として、地域で支えていきます。

地域資源

安富北小学校

活用できる地域資源の現状と取り組み

①安富北小学校

安富北小学校は地域の様々な活動拠点として、また次世代の子どもが育つ場として非常に重要な場所です。少子化など様々な問題がある中、地域として安富北小学校と一体となって、継続に向けた支援をしていく必要があります。

現在、安富北小学校と地域の関わりとして、放課後児童クラブを実施し子育て支援を行っています。また、地域住民も参加する安富北大運動会を毎年開催し交流の場として活用しています。

また、安富北小学校は兵庫県として初めてのユネスコスクール認定校として申請をしています。ユネスコスクールの申請が認められると、将来的には他のユネスコスクール認定校との交流事業などが可能になることから、地域として認定に向けての協力や支援を行います。

また、小規模特認校として校区外からの生徒の受け入れを出来るように、地域として協力していきます。

学校での活動や地域の魅力をPRし、移住定住の促進につなげていきます。

目標として、少子化が進む中で、生徒100人を実現し小学校の存続に向けて地域として支援していきます。

3 . 重点戦略計画

年次計画目標・取り組み

地域資源	次年度 (~2019年3月)	3年後 (~2021年3月)	5年後 (~2023年3月)	10年後 (~2028年3月)
安富北 小学校	<ul style="list-style-type: none"> ●地域交流施設・場の考案、創出のための安富北小学校の活用を検討する ●小中学校と地域との交流イベント拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校の取り組みに地域として更に緊密な協力体制をつくる 		<ul style="list-style-type: none"> ●安富北小学校の存続
小規模特認校	<ul style="list-style-type: none"> ●情報発信検討、受け入れ体制検討 	<ul style="list-style-type: none"> ●小規模特認校導入に協力 	<ul style="list-style-type: none"> ●小規模特認として校区外児童の転入受け入れ開始 	
ユネスコ スクール	<ul style="list-style-type: none"> ●ユネスコ事務局に申請 	<ul style="list-style-type: none"> ●他のユネスコスクール認定校との交流事業への協力やPR 		

ユネスコスクールとは

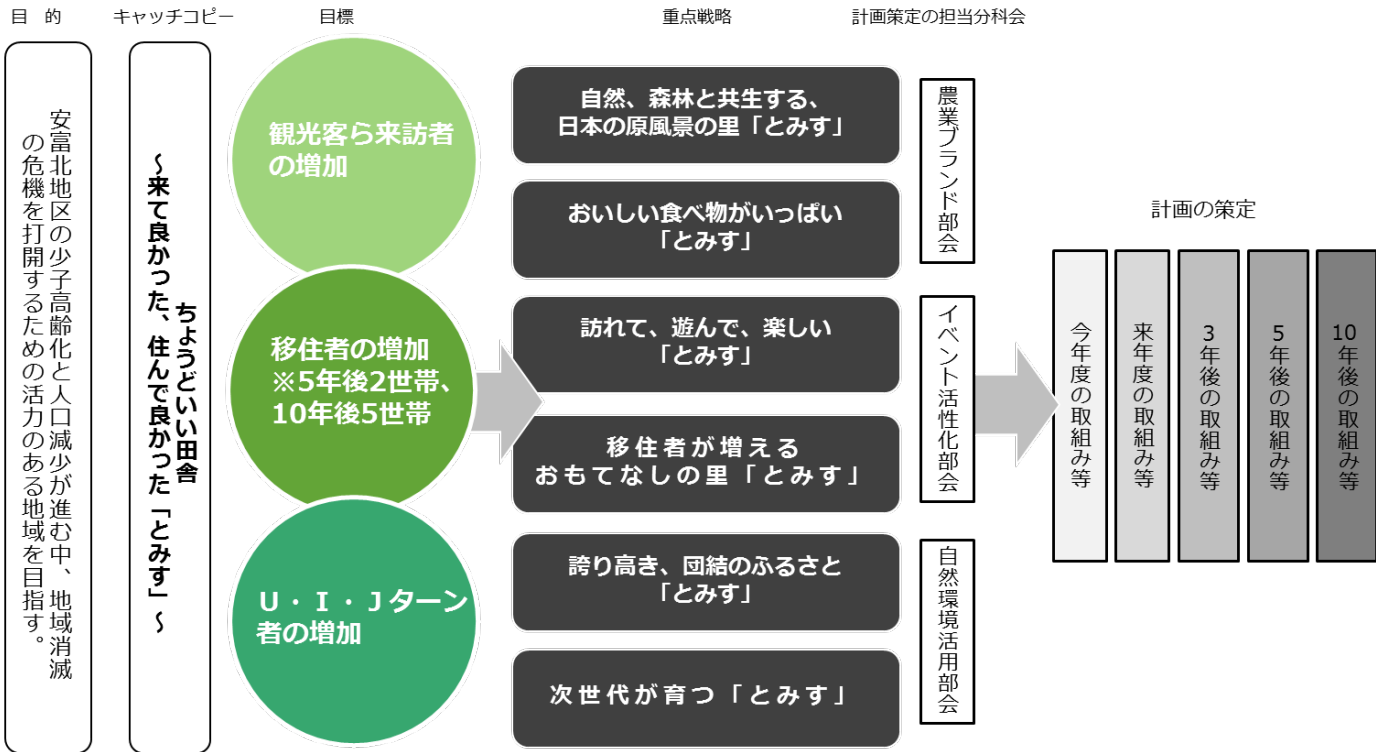
ユネスコスクールは、1953年、ASPnet(Associated Schools Project Network)として、ユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するため、国際理解教育の実験的な試みを比較研究し、その調整をはかる共同体として発足しました。世界182か国で約10,000校がASPnetに加盟して活動しています。日本国内では、2016年10月現在、929校の幼稚園、小学校・中学校・高等学校及び教員養成系大学がこのネットワークに参加しています。日本では、ASPnetへの加盟が承認された学校を、ユネスコスクールと呼んでいます。ユネスコスクールは、そのグローバルなネットワークを活用し、世界中の学校と交流し、生徒間・教師間で情報や体験を分かち合い、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指しています。

※ユネスコスクール公式ホームページより抜粋



4.とみす活性化計画策定スキーム

1) 策定スキーム

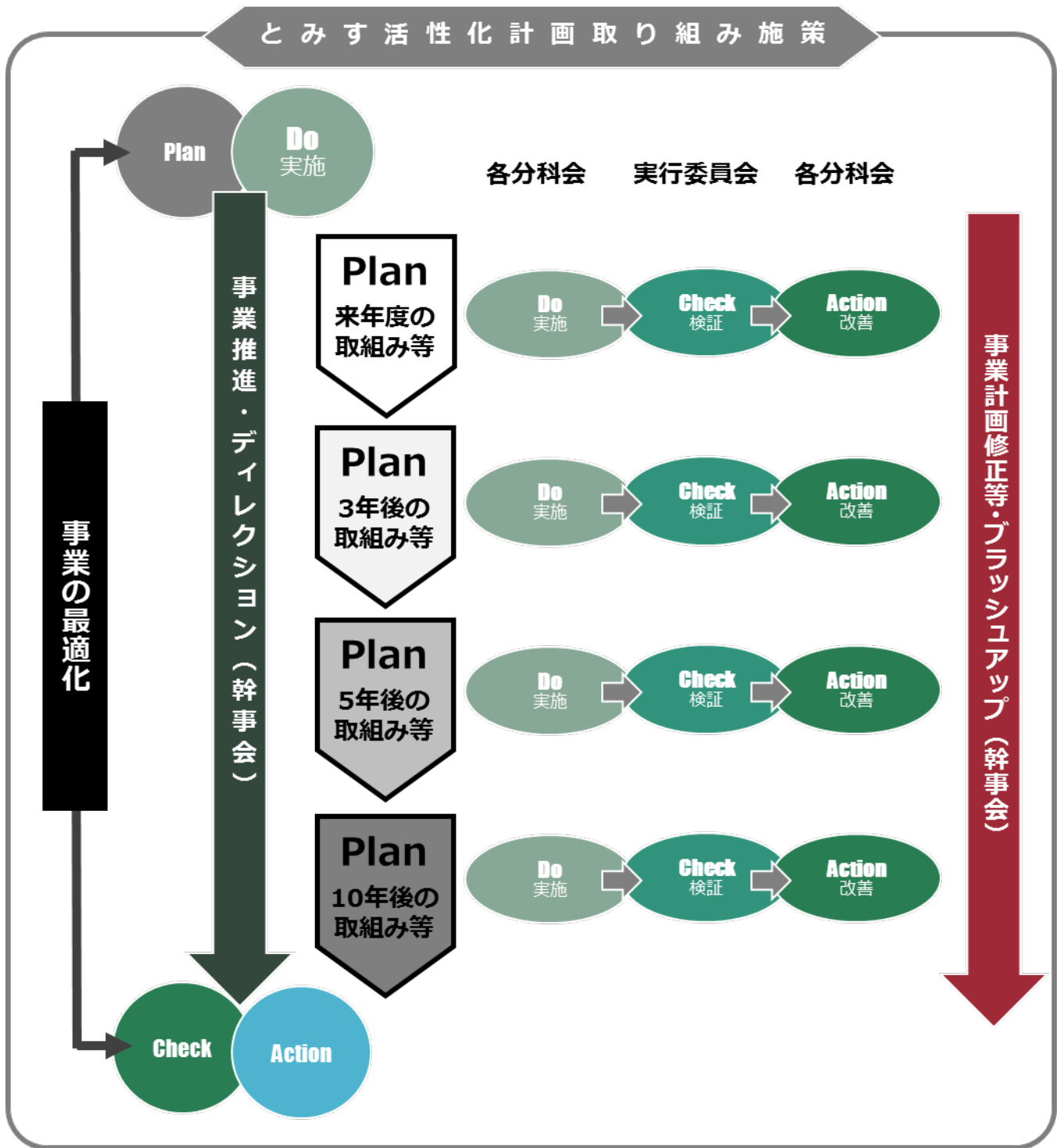


重点戦略	実施主体	関係団体
①自然、森林と共生する、日本の原風景の里「とみす」	自然環境活用部会	森林組合、グリーンステーション鹿ヶ壺、自治会、富栖の里（ラドン浴）、奥播磨かかしの里
②おいしい食べ物がいっぱい「とみす」	農業ブランド部会	安富ゆず組合、グリーンステーション鹿ヶ壺、自治会
③訪れて、遊んで、楽しい「とみす」	イベント活性化部会	森林組合、グリーンステーション鹿ヶ壺、自治会、富栖の里（ラドン浴）、天晴会
④移住者が増えるおもてなしの里「とみす」	イベント活性化部会	天晴会、グリーンステーション鹿ヶ壺、老人会
⑤誇り高き、団結のふるさと「とみす」	イベント活性化部会	安富北小学校、天晴会、老人会、SNS推進グループ（予定）
⑥次世代が育つ「とみす」	自然環境活用部会	天晴会、老人会、グリーンステーション鹿ヶ壺

4. とみす活性化計画策定スキーム

2) 事業実施のPDCA

一定のサイクルで、Plan（計画）-Do（実施）-Check（評価）-Action（改善）により継続的な事業実施を目指し、効率性・効果を図りながら施策の最適化を考えて行きます。



4.とみす活性化計画策定スキーム

3) 運営組織図

実行委員会メンバー			
<h1>T M S²</h1> <p>ともに 未来を すてきに</p>			
顧問	川西忠信	姫路市市議会議長	
全体統括	●古井 重次郎	皆河	推進委員長・連合自治会長
自然環境活用部会	●藪下 信悟	朽原	自治会長
	●本長 直樹	朽原	天晴会
	●小林 善行	末広	自治会長
	小林 龍三	末広	自治会役員
	大谷 敏博	朽原	天晴会
	ハル・フレリック	朽原	会社員
	亀井 義明	地区外	富栖の里
	亀井 浩一	地区外	富栖の里
農業ブランド部会	●岡本 重富	関	自治会長
	●吉田 恵一郎	末広	前自治会長
	中塚 泉	末広	ゆず組合
	谷中 勝己	皆河	副自治会長
	北村 正和	皆河	姫路市商工会長
イベント分科会	●山本 英毅	末広	天晴会
	●川西 孝行	地区外	森林組合
	本長 昭	朽原	副自治会長
	岡上 正人	関	かかし主催者
	早柏 秀樹	関	グリーンステーション鹿ヶ壺
	公受 雅	関	グリーンステーション鹿ヶ壺

※「●」は幹事会メンバー